

「農業は勉強することだらけで面白い」

森田 将史 (51歳) 新規参入
(東温市)



1 就農の動機・理由

就農前までは京都府でサラリーマンをしていたが、地域おこし協力隊に所属し、東温市に移住することになった。農業をするつもりはなかったが、周辺に住んでいる方たちは農家であることが多く、自己紹介のつもりで家の前の小さい園地で家庭菜園を始めた。早朝と仕事終わりにほ場管理を行い、特に雑草管理を行った。

夏の暑い時期でも雑草を手で抜き、その懸命な様子を見ていた周辺の住民から認めてもらった。そのおかげで周りの園地を譲ってもらうことが多くなり、農作業が楽しくなったために就農を決意した。

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和2年)	現在の経営 (令和5年)	将来の経営 (令和8年)
労働力	男1人(本人) 女1人(妻)	男1人(本人) 女1人(妻)	男1人(本人) 女1人(妻)
経営耕地	樹園地 28a	樹園地 52a	樹園地 77a
経営内容	なし 25a キウイフルーツ 3a	なし 27a ゆず 13a うめ 12a	なし 27a ゆず 20a うめ 30a

○農業用施設

農業用倉庫

1棟 50㎡

○主要農業機械

軽トラック	1台
動力噴霧機	1台
トラクター	1台
耕耘機	1台
運搬車	1台
電動バサミ	1台
草刈り機	1台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 京都府木津川市

職歴

平成10年～ OA機器商社

平成26年～ 地域おこし協力隊

就農年月 令和2年4月

(2) 就農時の思い

就農研修を受けていなかったため、知識も経験もなく非常に不安だった。周辺のほとんどの農家は米農家であるため、果樹の栽培方法を教えてくれる農家がおらず、独学で勉強した。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

なしを主力で栽培しており、元園主から栽培方法を教えてもらっている。それでも分からないことは本やネットで調べている。そのようにして得た知識を自分の園地で実証している。

(2) 資金の準備

自分の状況を JA に説明して青年等就農資金を活用するよう勧めてくれた。その資金のほとんどを農機具購入に充てている。

(3) 農地・住宅の確保

地域おこし協力隊で関わった方から住宅は紹介してもらった。農地に関しては獣害がある園地しか紹介してもらえず、良い条件の園地を紹介してもらうことはほとんどない。

(4) その他苦労したこと

獣害防止のための資材コストが非常に高い。苗木の新葉を鹿に食害されないためにネットで囲んだり、成木の周りをコモで巻く等対処した。本やネットで勉強してコストを抑えられるような対策を講じていきたい。

5 農業経営の特徴

東温市内でなしの園地は少ないが、なし栽培を主軸に経営を行っている。果実を販売しているが、最近では病気や傷がついている果実をドライフルーツにして販売している。

6 これからの夢

なしの園地を拡大し、梅やゆずのジャムやドライフルーツを作るための加工場を作りたい。そして、それらを売るための販路を開拓し、自分の作ったおいしいものを皆さんに届けたい。

7 成功したキーポイント

本で勉強したことや気づいたことを自分の園地で実証し、その結果を考察することで果実生産に生かしている。

8 就農を目指す方へのアドバイス

地域の人たちとの関係作りが非常に大切です。特に周辺の農家への気遣いを忘れないでください。僕自身は、自分の園地内の草を刈るだけでなく、園地周辺の草も刈るようにしています。このような少しの思いやりを持った行動を心掛けていると、自分が困ったときに周辺の農家がきっと助けてくれますよ。

○ 指導機関からのひとこと

周りになしの農家がない中で、自分で考え、実践し、課題を見つけ、それを次に活かすというような PDCA サイクルを意識した経営をされています。地域振興にも目を向けながら東温市をもっと盛り上げていこうとされており、地域を代表するような立派な担い手となられることを期待しています。

執筆機関

中予地方局農業振興課地域農業育成室
電話番号 089-909-8762



なしの剪定作業